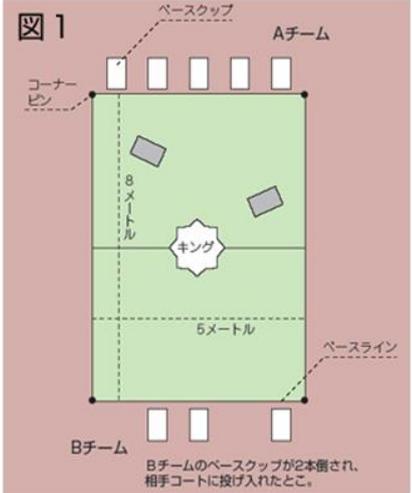


No.	412	クッブ			
概要	クッブはバイキングたちが生み出したスウェーデン生まれのスポーツ。両チーム5個ずつのクッブ(角材)を自陣コートに並べ、先攻チームは6本のキャストピンナ(丸棒)を投げて、相手コートへのクッブを倒す。全部クッブを倒したらキングを倒す。先にキングを倒したチームの勝ち。				
内容	人数(人)	2~24人	時間	1~2時間	
	対象	小5以上	時期	通年	
	場所	多目的ホール、第5研修室、体育館 等			
	指導形態	自主活動 ・ 事前の説明のみ ・ 直接指導			
安全管理	引率者による、参加者の観察。状況に応じては、職員と情報交換。				
ねらい	○心身の健康・体力の保持・増進を図る。 ○ルールを守ったり、チームで作戦を考えたりしてゲームを行いながら、仲間との交流を深める。				
準備	施設から貸出	室内用クッブ 2セット			
	団体で準備	・タオル・水分補給用の飲料(・体育館の場合:体育館用のシューズ)			
	確認事項	○所有のクッブは室内用なので、体育館か多目的ホールで利用する。 ○体育館ならばバドミントンコートを利用。多目的ホールならコートを設置する。ただし、活動をする団体に合わせて、調節する。			

	内容	留意事項
活動前	○2グループに分けておく。	
活動の説明	両チーム5個ずつのクッブ(角材)を自陣コートに並べて、先攻後攻を決める。先攻チームは6本のキャストピンナ(丸棒)を投げて、相手コートへのクッブを倒す。クッブを全部倒したら、キングを倒す。先にキングを倒したチームの勝ち。ただし、相手チームに倒されたクッブは、攻撃時に相手コートに投げ入れて、まずはそのクッブを倒さないと相手が元から立ててあるクッブは倒せない。	
展開	ゲームの進め方 1. 5m×8m(または4m×6m)のスペースの4角にコーナーピンを立てコートの範囲を特定する。 * 世界大会は「5m×8m」 2. コートの中央にキングを設置する。 3. それぞれのベースライン(ショートサイド)に各5個のクッブを均等に置く。これをベースクッブと呼ぶ。 4. 先攻、後攻を決めた後、先攻チームは自陣のベースラインの後方から6本のキャストピンを、1人1本ずつ順番に必ず下手投げで、後攻チームのクッブを出来るだけ多く倒す。相手のクッブをすべて倒し、最初にキングを倒したチームの勝ち。 5. Aチームを先攻、Bチームを後攻とする。 まずは、AチームがBチームのベースクッブを2本倒した。Bチームは、倒されたクッブをAチームのコートに自陣のベースラインの後方から投げる。(図1) 1回の投てきでAチームのフィールド内に留まらなかったクッブはもう一度だけ投げることができる。 2回の投てきでフィールド内に留まらなかったクッブは、Aチームが自陣内であればどこでも好きなところに置くことができる。つまり、自分たちに有利な場所におくことができる。ただし、キングからはクッブの長さ分の間隔を空けなければならない。	

6.Aチームは、Bチームより投げられたクップの両サイドの一方を選んで、そこに基点にしてクップを起こす。これらのクップをフィールドクップと呼ぶ。(図2)

図2



展開

7.Bチームは6本のキャストピンを投げて、先ず始めにAチームのフィールドクップをすべて倒してから、ベースクップを倒さなければならない。フィールドクップが立っている時にベースクップを倒しても、元に戻される。

8.Bチームは、1本のフィールドクップしか倒せなかった時は、再びAチームの投げる番になり、Aチームは1本のフィールドクップを投げ返す。

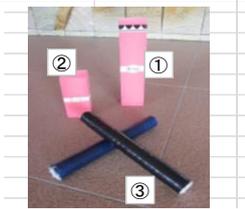
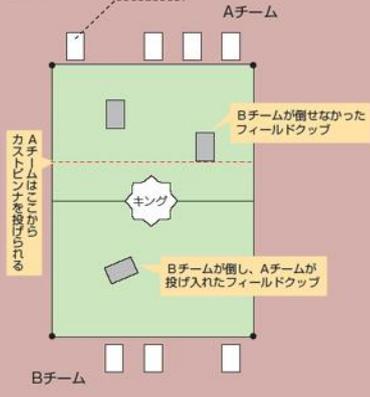
9.すべてのフィールドクップを倒しきれなかった場合、次に投げるAチームは、残っているセンターラインに一番近いクップまで前進してキャストピンを投げることができる。(図3)

10.以上を繰り返し、相手チームのすべてのクップを倒したチームが、初めてキングを倒す権利を得て、最終的に先にキングを倒したチームが勝者となる。

11.キングを倒すための投てきは常にベースライン後方から行わなければならない。

12.相手チームのすべてのクップを倒す前に誤ってキングを倒してしまったチームはその時点で負けとなる。

図3



備品

- ①キングクップ
- ②ベースクップ
- ③キャストピン(青と黒)

* 室内用なので、柔らかい素材